

住まいも家族も魅力的になる

L・D・K空間づくり

第一章	2008年5・6月号	家づくり計画とプランニング
第二章	2008年7・8月号	これからの家づくりで重要視すること
第三章	2008年9・10月号	L・D・K空間づくり
第四章	2008年11・12月号	サニタリー空間づくり
第五章	2009年1・2月号	玄関・プライベート空間づくり
第六章	2009年3・4月号	エクステリアと外観デザイン

リビング、ダイニング、キッチンの空間構成



「くつろぐ」「食べる」「調理する」スタイルがさまざまなかたちで進化し、リビング・ダイニング・キッチン・キッチンの空間は機能・デザインともにポータラズ化しています。だからこそ、自分たち家族にフィットするLDKのスタイルを見出すことが、家づくりでも重要なポイントです。そこで「家づくり教科書」の第3弾となる今号では、リビング、ダイニング、キッチンの新しい関係や空間のつくり方、最新設備、建築家による提案を盛り込んで、現代にフィットするL・D・K空間づくりを紹介しています。

LDKの空間構成

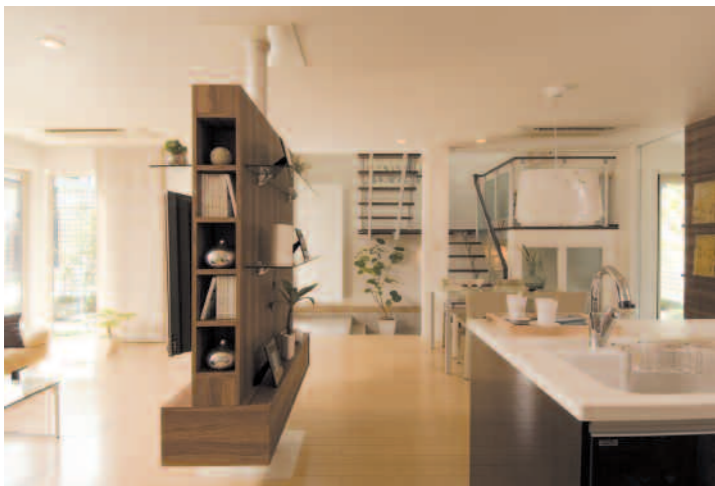
LとDとKの新しい関係

リビングとダイニングとキッチン。この3つを組み合わせると、さまざまな暮らし方が浮かび上がってきます。自分たち家族にはどんなスタイルが心地よいのかを知るために、それぞれの特徴を押さえておきましょう。



LとDとKを一空間の中に区切らずに配るスタイル

つくる、食べる、くつろぐ。それぞれの場を一体としてつくることで、広々とした居住スペースが叶えられます。また、窓からの



ワンルームのLDK空間

間仕切り壁や廊下のスペースをなくし、キッチン、リビング、ダイニングをワンルームにしたLDK。正面にある0.5階の土間、1.5階の踊り場をもつ玄関・階段のユニットとオープンにつなぐことで、視線が抜け、家族と一体感が感じられる。中央の飾り棚は360度回転可能。必要に応じて空間を仕切ったりつなげたりできる。「bjプラス」(セキスイハイム)

DとKを一空間にし、Lを独立させるスタイル

リビングが独立しているため、急な来客にもあわてることなく、日常と非日常をバランスよく両立できるレイアウトです。つくる

場と食べる場を合理的に一体化させ、多忙な日々のなかで会話を楽しみながら調理したり、手伝ったりという関係が生まれます。独立型リビングは、フォーマルな場でも対応。住まいをSOHOとして使う場合には、打ち合わせ室としても便利です。

食の空間と切り離されるということにより、リビングは静けさと落ち着きが得られ、特別な空間としてこだわりを反映できるようになります。たとえば、ホームシアターなら音響設備の充実など、よりクオリティの高い環境を整えることが可能。また、ホテルライクなインテリアのリビングとして食後のコーヒーを優雅に味わったり、和モダンな畳敷きのリビングでごろ寝をしながら読書をと、くつろぎのスタイルも思いのままです。

また、ゆとりの部屋として、四季折々の行事の設えを楽しみ、伝統を次世代に伝える場にもなるでしょう。



リビングは独立

食の空間と切り離して配置するメリットを最大限に引き出した、落ち着いたリビング。採光量をあえて抑えた窓と勾配天井により、隠れ家のような趣がある。(エス・バイ・エル)



●畳座のダイニングキッチン

1列型のキッチンと対面カウンター、畳座のダイニングのコンビネーション。調理をする人、食べる人の視線が合うように、ダイニングスペースは一段高くなっている。対面カウンターは料理や食器の一時置きに使用して便利。「クレディア」(トステム)



●使い分けられる2つのダイニング

ダブルダイニングスタイルのDK。レストランの一角のような半個室にしたダイニング(奥)と、キッチンカウンターにあるオープンスタイルのダイニングコーナーを、シチュエーションに応じて使える楽しさがある。「シェア・ウィズ」(積水ハウス)



●田舎家風のダイニングキッチン

スローライフで知られる南欧スタイルのインテリアを取り入れたダイニングキッチン。天井の梁、素焼きのレンガを用いた床、暖色系でコーディネートされた内装、天然木のダイニングテーブルなどが、家族の団らんを温かく包む。「xevoWE」(大和ハウス工業)

中心にするレイアウトです。このスタイルの主役は大きなダイニングテーブル。食後、そして食事の時間ではなくてもそこで過ごしたくなるような空間にするためには、家族がそれぞれの仕事や趣味のものを広げられるスペースが必要です。ダイニングテーブルに無垢の一枚板や、美しい色の石などを用いると、家族が思い出を重ねていく心よりどころとなるでしょう。一方で、各個室やそのまわりにリビング的要素を取り込む空間づくりも欠かせません。たとえば、主寝室や子供室の手前に多目的

ールをつくりたり、書斎とアトリエにソファコーナーを設け、コミュニケーションの場所をつくりましょう。**LとKを一空間にし、あえてDを設けないスタイル** 住まいのいわば表であるリビングに、舞台裏であるキッチンを見事に溶け込ませたのは、システムキッチンをはじめとしたキッチンセットの家具化です。また、食のファッション性を楽しむライフスタイルにもマッチしたともいえるでしょう。今、つくる場合は、くつろぎの場の主役としても輝き始めています。ダイニングの役割はキッチンカウンターが担い、ディンクスなど少人数の家族や気の合ったゲストと、つくり、食べる楽しみを共有。ワイングラスを片手にキッチンに立つ、ソファに腰かけながらサラダの準備をする。日常を、パーティーの華やかさで包むキッチンには、弾む会話と先端的なファッション、そして音楽がよく似合います。

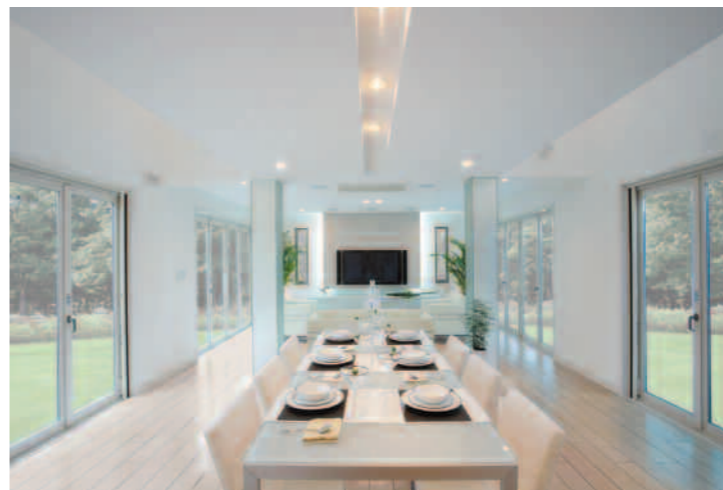


●ファッションなリビング・キッチン

(右) アンティーク風の大きな木のテーブルに、シンクやコンロなどキッチンのパーツをトッピング。ソファやシャンデリアとも調和したインテリアデザインになっている。「PUTTON」(左) 両手を広げたようなV字型のシステムキッチン空間の主役として配置。内側にいるとアリーナのような趣があり、調理シーンがパーティーの演出となる。「meuble Carbon Fiber」(いずれもトーヨーキッチン&リビング)



●都会的なリビング・ダイニング



白を基調にし、装飾を排したインテリアデザインにより、グレード感漂うリビング・ダイニング。シンメトリーのレイアウトが、端正で格調高い印象を際立たせる。(セキスイハイム)

L D K Kを独立させ、LとDを一空間にしたスタイル

調理をする人がまわりに気をとられず、自分のペースで料理に集中できることはもちろん、リビングやダイニングにいる家族が、キッチンという舞台裏の様子を気にせずゆつくりくつろげるレイアウトです。キッチンが独立していると、調理時に発生する音、油煙や水蒸気がリビング・ダイニングに届きにくいことも、大きなメリットといえるでしょう。調理の場と分けるということは、リビング・ダイニングの空間デザイン上、フォーマルに調えられるという利点があります。グ

トへの振舞いが優雅にスマートにできるので、「食事はわが家で」と声をかける自信が生まれます。

L D K L、D、Kをそれぞれ独立させたスタイル

L、D、Kそれぞれに、使い勝手とデザインにこだわられるレイアウトは、つくる、食べる、くつろぐスタイルのバリエーションを広げてくれます。場が変わることで、暮らしに心地よい趣がもたらされることもあるでしょう。たとえば、キッチンはレストランの厨房のように機能美あふれるデザイン、ダイニングは家族がくつろげるナチュラルモダンなテイスト、そしてリビングはアートギャラリーのようにコーディネート。ダイニングをフォーマルに、リビングを囲炉裏のような空間に、というようにまったく違う趣向に演出することも可能です。L、D、Kを別個に考えると、レイアウトの自由度も増します。動線上、キッチンとダイニングは隣接させるのが定番ですが、ホームエレベーターを使えばフロアが分かれていてもアクセスはスムーズ。眺望を楽しめるダイニングを最上階に、洞窟のようなリビングを地下につくるのもよいでしょう。

D K Lをあえて設けず、DとKを1つの空間にまとめたスタイル

家族みんなが多忙な毎日のなかで食の空間を重視し、食べる空間をくつろぎの空間にオーバーラップさせて、コミュニケーションの

●キッチンが独立型

料理好きにうれしい独立型キッチン。キッチンレイアウトをL字型にすることでたっぷりの収納と作業スペースを確保。手前はテラスに面したヌック。ちょっとした食事ならここですませられる。(積水ハウス)



吹き抜けを取り入れた独立型のダイニング。木肌感のある内装・建材と、リッチな質感の漆調鏡面扉の収納をコーディネート。ナチュラルでありながら洗練された空間となっている。「グランドライン」(トステム)

●ダイニングは独立型

